

令和4年度北陸ブロック小麦等の生産・販売に 係る意見交換会概要

北陸農政局生産部生産振興課
(令和4年6月13日開催)

小麦等の生産・販売に係る意見交換会概要①

- 国際的な農産物価格高騰により、輸入麦の価格が高騰
- 輸入依存度の高い小麦を少しでも国内産に切り替えるため、農水省は「国内生産体制強化緊急対策」を発表（令和4年4月）。
- 今回、生産・製粉/実需の各者と北陸小麦の課題とカイゼンを議論。

◎ 北陸の麦生産の現状

➤ 北陸での小麦は、作付面積がとても少なく、単収も低い。

（理由）

- ・ 収穫期が梅雨時期(6月)となり、穂発芽や赤カビの原因となる
- ・ 排水不良田での作付で単収が良くない
- ・ 継続的に作付されていないので、生産技術や品質が安定しないこと

結果として、需要がほとんどない現状にある。

（一方で、六条大麦は実需者から生産ニーズもあり、継続して作付されてきたので、品質/収量ともに商品適性が高い、と評価を受けている）

小麦等の生産・販売に係る意見交換会概要②

◎ 生産者側からの意見（県報告等）

【生産面】

- ・ 安定生産には、排水対策等の基本技術の徹底が必要。
- ・ タンパク含有率を上げるため、穂肥・実肥等の適切な施用が必要
(生産コストの増加が懸念)
- ・ 小麦の生産拡大には、新規生産者の確保や北陸にマッチした新品種の育成が必要。
- ・ 地力維持や作付体系の観点から、麦の前後作における最適な品目・品種の選定が必要。

【流通面】

- ・ 中長期的な需要の確保により、ミスマッチの解消が必要。
- ・ 小麦専用の機械・施設の整備や大麦等のコンタミ防止対策。
- ・ 種子の確保や保管場所の確保（空き倉庫の運用）等、拠点配置も必要。

小麦等の生産・販売に係る意見交換会概要③

◎実需者からの意見

【国内向け（地産地消）】

●学校給食での使用や地場産小麦商品による需要喚起（地産地消）

- ・学校給食用パンでの県産小麦への切り替え使用増加（他県産小麦や輸入小麦からの切り替え）
- ・地元の小麦が安定的に供給されるとアイテム数が増え、さらに、品質の安定により販路拡大が実現。

【外国産からの切替①】

●タンパク質など特定成分を問わない醤油等にも提供可能。

- ・醤油は、パン等のタンパク質など特定の成分を必要とする他の加工品以外への小麦の受け皿となり、外国産から国産への切替の受け皿となる。
- ・国内産切替のためには、国産小麦の安定供給とともに、商品製造・流通に必要なコストが価格転嫁されることが必要。
- ・外国産小麦と国産小麦をブレンドした場合、原料の原産地表示の点で難しい。

小麦等の生産・販売に係る意見交換会概要④

◎ 今後の検討課題

【Ⅰ 需要確保】

- ・まず、地元の需要先を開拓し、安定的に提供していくことが必要ではないか。（学校給食、めん、パン、醤油用など）

【Ⅱ 生産拡大】

- ・実需者が求める品質・量の確保のためには、作付する土地や気象条件を踏まえたパン、めん等向けの品種を選ぶべきではないか。

①品質確保のための条件→タンパク質含量、製粉時の粒の大きさ（歩留まり）

②栽培条件→耐寒性、耐雪性、早生種（収穫期が早い）等

小麦等の生産・販売に係る意見交換会概要⑤

【今後の対応（案）】

- ・ 麦生産者を対象とした勉強会（北陸麦サロン）の開催（WEB等）
- ・ 取組事例等の情報発信。